広報かがみの 9
2023年9月号 第223号 毎月1日発行

シリーズ 第160回

三村真経の実像①

香北地区の真経は、昔は河内上村という村名でしたが、江戸時代の万治二年（一六五九）に津山藩に願い出て真経村と改称したといわれます。この「真経」という地名は、三村真経という人物に由来します。三村真経については、地元では次のような伝説が残されています。

三村三郎左衛門尉越智真経は、備中松山城（高梁市）の城主・三村修理進家親の三男といわれます。三村家親は安芸（広島県）の大名・毛利元就と結び、備中において勢力を拡大していました。さらに備前や美作にも侵攻し、備前の大名・浦上氏やその重臣である宇喜多直家とたびたび交戦していたのですが、永禄八年（一五六五）、美作に侵攻し興善寺という寺院（久米南町）で軍議を行っていたところを宇喜多直家の家臣に火縄銃で狙撃され、死亡してしまいます。その跡を継いだのは二男の元親ですが、元親は天正二年（一五七四）、毛利氏から離反したことにより敵対関係となり、毛利氏から侵攻を受け備中松山城を取り囲まれ、翌年五月に城は落城し、元親は自刃し戦国大名としての三村氏は滅亡してしまいました。

当時十五才だった三村真経は、家臣の勧めにより原平内と土橋太郎兵衛という近臣を伴って落ち延び、河内上村の田村兵衛の屋敷にかくまわれたといわれます。

そしてこの地に土着した三村真経は、天正十六年（一五八八）には自らが大願主となり、河内上村の総鎮守として八幡宮を勧請したと伝えられます。この八幡宮について『作陽誌』には

真経村に在り。本殿拝殿共に寛文元年、池村縫殿助修造す。天和三年、同氏再び建立す。祭りは九月十七日。境内東西五十五間南北五十間。此の村の氏神なり。

と、創建年や三村真経に関する記述はありませんが、寛文元年（一六六一）に修理され、天和三年（一六八四）に再建されたことが書かれています。池村縫殿助とは、津山藩森家の重臣で知行二千石、年寄役で城代を務めていた池村正武のことです。池村は天和三年に森家を去っていますので、その直前に社殿が再建されたということでしょう。八幡宮は明治四十四年（一九一一）に現在の香々美北神社に合祀されるまでの約三二〇年の間、この地の守護神として祀られていました。八幡宮の灯篭や手水鉢は香々美北神社に移設され、現在も残っています。

三村真経の墓碑（真経）

香々美北神社（真経）

香々美北神社の手水鉢

こうして、この地に大きな功績を遺した三村真経は、慶長元年（一五九六）十一月十五日に亡くなったといわれますが、六十余年後に前述のとおり河内上村を真経村と改称したというのは、村民たちによってその遺徳が代々讃えられていたということでしょう。

真経には、死後二〇〇年以上経過した江戸時代後期の文化十年（一八一三）に、三村真経の子孫達によって建てられた自然石の墓碑が残されています。碑文には

文化十酉年四月三村一族建之
備中国松山城主三村修理進家親
三男
藩屏将軍伊与国越智親王後胤
三村三郎左衛門尉越智真経墓所
天正三乙亥年作劦占南郡　河内
上村

と、三村真経の出自とこの地に来住した年が刻まれています。この碑文や地域に残された伝説から推測できる三村真経とは、一体どのような人物だったのでしょう。

参考：『鏡野町史』『香北ふるさとの伝承』『作陽誌』『鏡野町の石造物』『永見屋敷跡』

鏡野町教育委員会　生涯学習課　日下
電話（0868）54-0573

〒708-0392 岡山県苫田郡鏡野町竹田660 鏡野町くらし安全課 TEL0868-54-2780
【鏡野町のホームページアドレス】http://www.town.kagamino.lg.jp/